

「働きやすい病院」が、
“強い病院”をつくる！

大阪府内の34医療機関 による

勤務環境改善の

好事例集

取り組みのポイント と 効果

大阪府医療勤務環境改善支援センター

“大阪府勤改センター”と呼んでください！

医師事務作業補助者のスキル向上

(医師の業務負担軽減)

Profile.

医療機関名	社会医療法人 若弘会 若草第一病院		病床数	2	3	0	床
			職員数	4	7	7	名
病院機能	急性期		標榜科数		2	0	科



取組前の状況・取組の経緯

背景・きっかけ

以前より医師のタスクシフトとして外来診療補助、医療文書の作成補助、診療データの登録・報告の補助を行っていたが、マニュアルの整備や教育体制の構築ができていなかったため、医師事務作業補助業務の質にバラつきがあった。

医師の業務負担軽減を推進するために医師事務作業補助者の知識とスキルの向上に対する取り組みを行うこととした。



院内での検討状況 (院内ワーキングでの検討事項等)

2021年4月医師、看護師、医師事務作業補助者で構成される委員会において、取り組みの方針と医師事務作業補助者研修プログラムの再構成を決定した。これ以降、毎月開催される委員会において、取り組み内容の報告、今後の取り組みについての検討を行っている。



取組の内容

研修の再構成

医師事務作業補助者研修プログラムを再構成し直し、医師、看護師をはじめとする多職種に講師を依頼した。講義を録画することにより、いつでも研修を受講できる体制を整えた。また一單元ごとにテストを行い知識の定着を図っている。

業務マニュアル整備

一定の質の医師事務作業補助業務が提供できるよう業務基準となるマニュアルを整備した。

新規担当若手育成時にはマニュアルをもとに指導を行う。医師の個別性にも対応できるようになっている。随時の変更と毎年定期見直しを行っている。

ローテーション配置

複数の診療科外来を担当できるようになるためローテーション配置を行っている。

主担当が欠勤した場合でも、外来診療補助業務の質を落とさず提供できるよう、各診療科に複数名の担当者を育成している。

医療文書の精度向上

医療文書作成について部署内でチェック体制を構築し、医師に承認依頼する前に精度を高めるようにしている。医師からの修正指摘は、部署内で周知今後の医療文書作成に活用するようにしている。修正指摘事項やスタッフからの質問事項をもとに勉強会を開催している。

知識の習得

理解を深めたい医学知識や業務における疑問点等についてアンケートを取り、医師をはじめとする各分野の専門家に講師を依頼し、年4回勉強会を開催している。また、医師事務作業補助者が講師となる部署内ミニレクチャーを毎月開催し、継続した知識の習得を行っている。学会等にも積極的に参加し、他院の取り組みを参考にし、当院の医師の業務負担軽減の取り組みに活用している。



得られた効果

01. 外来診療補助業務

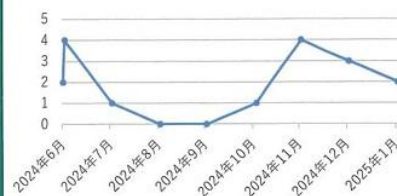
- ◎ ほぼ全ての外来において、次回予約の取得やカルテの代行記載、各種検査、処方の代行オーダー等を行うことができるようになり、医師が患者に向き合う時間を確保している。
- ◎ 医学管理料の記載要件を把握し、カルテに代行入力することで、医師の診療行為を適切な診療報酬に結びつけることができている。また、介入が必要な職種を把握し、事前に介入依頼を行っているため、診察の流れをスムーズにすることができている。
- ◎ 各外来枠において平均3名以上の担当者を育成でき、外来診療補助業務の安定性が向上した。

<外来診療補助業務 内容> ※医師により異なる	
次回予約取得	検査オーダー
カルテ記事記載	処置オーダー
同意書等作成	医学管理料オーダー
クリニカルパス適用	必要職種介入依頼

02. 医療文書作成補助業務

- ◎ 部署内チェック体制構築後、医師からの修正指摘件数は月平均5件以下となっており、医師の事務作業時間減少に貢献している。
- ◎ ローテーション配置や勉強会の継続により医療知識が向上し、医療文書作成のスキル向上に繋がった。作成スピードが上がり、発行期日に余裕をもって医師に承認依頼をすることができている。
- ◎ 患者や保険会社からの問い合わせ件数が減少した。

医師からの医療文書修正指摘件数



日時	テーマ	講師
2023年7月	睡眠時無呼吸症候群について	呼吸器内科 医師
2023年10月	リハビリテーションについて	リハビリテーション課 課長
2023年12月	泌尿器科について	泌尿器科 医師
2024年2月	消化器疾患について	消化器内科 医師
2024年6月	IBDについて	消化器内科 医師
2024年9月	血液内科について	血液内科 医師
2024年12月	指導料、管理料について	医事課 課長
2025年3月	病理診断について	病理診断科 医師

<直近2年間の勉強会>



取組を進めるに当たってのポイント

- ☑ 医師事務作業補助者の役割を改めてスタッフに説明し、取り組みの必要性について理解を促す。
- ☑ 医師の業務負担軽減推進に必要な取り組みを医師事務作業補助者自身が考える。
- ☑ 取り組み内容に沿った部署目標を立て明示する。
- ☑ 取り組みの進捗状況を定期的に報告し、効果をスタッフだけではなく、医師や看護師にも理解してもらうことで、医師事務作業補助業務に対する理解が深まり、協力を得られるようになったと感じている。